課題名	22. みかん灰色かび病の発生と降雨との関係について
成果の要約	本病の発生は開花後１カ月間の降雨量と関係が深く、降雨量が多いと少発生、少ないと多発生する。

成績概要

1. 開花後１カ月間の降雨量が少なかった、昭和５４年、５６年、５７年の発生が多かった。また、３０㎜以上の降雨日数が多いほど発生が少なかった。
2. 摘果前の発病果率が同程度でも、着果量の多い年は少ない年よりも、収穫時の発生果率が低くなる。これは摘果時の傷害果の除去割合が高くなるためである。

第１表　ミカン灰色カビ病菌による果実傷害果の年度別発生と降雨との関係

年　度	降雨量	降雨日数	３０mm以上の降雨日数	摘果前の発病果率	収穫時の発病果率	着果量
	(mm)	(日)	(日)	(%)	(%)	
昭和５４年	55.1	6	0	25	7.2	多
〃 ５５年	279.2	13	3	7	6.9	少
〃 ５６年	80.5	10	0	19	5.3	多
〃 ５７年	78.0	9	1	20	11.2	少
〃 ５８年	178.2	7	3	13	1.8	多
〃 ５９年	130.5	9	2	14	5.2	少
〃 ６０年	162.0	13	4	9	5.8	多
平　均	137.7	9.6	1.9	15.3	6.2	

(昭６０長崎果試)

普及上の留意点	本病の発生予察への活用を検討する。